

クロリーヌとふしぎなこたつ

戸森しるこ

クロリーヌは黒ねこです。クロリーヌの家には、こたつがあります。

赤いふとんのかかった、小さな丸いテーブルの下に、電気がついていて、ふとんの中に足を入れると、とって

もあたたかいのです。

冬になると、こたつの中でおひるねをするのが、クロリーヌのおたのしみです。

今日もクロリーヌは、こたつであたたまっていて、飼主のユキさんの横から、こたつの中にもぐりこみました。「あれれっ？」

のぞいてびっくり、いつもはまっくらなこたつの中に、小さなまちがあるではありませんか。こたつのテーブルのかわりに、青い空も見えます。

「わあ、すごい」

ユキさんの足のむこうは、ずっと広くなっていて、小さな家や、小さなお店が、たくさんならんでいました。たてものはすべて、こたつのふとんと同じ赤色です。

「小さくて、かわいいなあ。もっと近くで見たいにゃん」

クロリーヌは身をのりだしました。

よく見ると、人もいます。お店で買い物をしている人や、家の庭で水をまいている人、学校の校庭で走っている

子どもたちもいます。そしてみんな、赤い服を着ていました。

小さな赤い人たちは、みんなで歌っています。

ひとーつ ふたーつ

こたーつ

ここは たのしい

こたつまち

こたーつ こたーつ

こたつへおいで

あたたかくって

ねむくなる



「むにやむにや、たしかにねむくなるにゃん」

クロリーヌは、なにかにさそわれるように、小さなこたつのまちの中へ、進んでいこうとしました。

すると、まちの小さな人々たちから、話しかけられました。

「ストップ、ストップ」

「黒ねこさん、大きすぎるわよ」

「小さくなれば、こたつまちでくらせるよ」

クロリーヌは、もうねむたくって、歩くことができま

せん。

「もうここでねちやおう」

目がさめると、見たことのない場所にいました。あたりを見ると、大きな赤い家や、赤いお店がならんでいます。でも、人はだれもいません。どこからともなく、歌が聞こえてきます。

ひとーつ ふたーつ

こたーつ

ここは たのしい

こたつまち

ねむっておきたら

こたつびと

ねむっておきたら

こたつねこ



「ねむっておきたら、こたつねこ？ あっ」

よく見たら、クロリーヌは赤いねこになっていました。

「わたし、あの小さな赤いまちの大きさに、ちりんじやったんだ！ こたつねこになっちゃったんだ！ どうしよう」

クロリーヌは、こわくなって、しくしくなきはじめました。

そのとき、クロリーヌのはなが、ひくひく動きました。

「あれっ、いいにおいがする。クリームシチューだ！」
とろーりクリームと、ごろっとしたお肉が、たまりま

せん。

「いつてみよう！」

クロリーヌは、赤いまちの中を、クリームシチューのほうへ走ります。

ところが、どんなに走っても、前に進まないようにな

んじです。からだがいまぐ動きません。

「えいっ、えいっ、おかしいにゃん」

クロリーヌは前足のつめを出して、思いつきり、前にジャンプしました。

びりっ！

すると、きゅうにかおが、ひやっと、すずしくなりました。

「クロリーヌ、おひるねはおしまい？」

ユキさんが、よるごはんのしたくをしていました。

「あらまあ！ クロリーヌったら、また、こたつのふとんをひつかいたわね」

見ると、こたつのふとんには、たしかにひつかいたあとがありました。

「ごめんにやー」

クロリーヌの頭の中は、クリームシチューでいっぱいです。こたつまちのことも、自分が赤いねこになっていたことも、もうすっかりわすれていました。（おしまい）